

「南部菱刺し」に関する教育活動（1）

川守田 礼子*

論文要約

「南部菱刺し」は青森県の伝統工芸である。本稿では、八戸工業大学で展開している「南部菱刺し」に関する教育活動を紹介する。

キーワード：南部菱刺し，教育活動，伝統工芸,体験学習

Educational Activities Related to "Nambu Diamond Embroidery" (1)

Reiko KAWAMORITA *

ABSTRACT

"Nambu Diamond Embroidery" is traditional handwork of Aomori prefecture. This study aims to introduce educational activities related to "Nambu Diamond Embroidery" developed in Hachinohe Institute of Technology.

Keywords: *Nambu Diamond Embroidery, educational activity, traditional handwork, active learning*

令和2年 3月20日

*八戸工業大学感性デザイン学部創生デザイン学科・准教授

1. はじめに

八戸工業大学では、文部科学省「平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業」として「北東北の人口減少社会における自律的課題解決に向けたハブ機能構築と社会的資本の維持開発研究事業」が採択され、地域社会の課題解決や地域活性化を目指した教育研究活動を展開してきた。本プロジェクトは、①生活と向き合い、ともに守る、②暮らしを創造し、ともに守る、③社会を支え、ともに守る、の三つの視点を有する。このうち②の視点に大きく関わるのが感性デザイン学部創生デザイン学科である。当学科では企業や市民、行政と協力しながら地域の魅力を創造・発信する活動を推進している。また、こうした活動を通して、将来の地域づくりを担う人材を育成することを目指している。

青森県の刺し子工芸に、南部地域の「南部菱刺し」と津軽地域の「こぎん刺し」がある。厳しい自然環境を背景に、農耕着の補修・保温を目的として生まれた刺し子技術で、地域の農耕生活と強く結びつきながら継承されてきた生活工芸である。現代では農耕生活との密着点は完全に失われたが、いずれも青森県伝統工芸品に指定され、地域の魅力づくりにつながる文化資源・観光資源として注目されている。

創生デザイン学科川守田研究室では、これまで「南部菱刺し」「こぎん刺し」に関する調査研究およびデザイン・製作活動を実践してきた。本稿では 2019 年度までの「南部菱刺し」に関わる教育活動、特に「地域文化論」における教育実践と卒業研究を中心としたゼミ活動について報告する。

2. 「地域文化論」における教育活動の状況

本科目は、創生デザイン学科専門基礎科目に位置付けられ、3 年前期開講 2 単位の選択科目（2018 年度より 1 年開講に変更）である。2012～2019 年度の受講者数は表 1 の通りである。

表 1 「地域文化論」受講者数推移

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
人数	38名	39名	21名	34名	31名	32名	61名	54名

本科目の到達目標は、①地域文化を理解する、②地域文化と生活、デザインとの関わりを理解する、③地域文化に親しみ、関心を持てるようになる、の 3 点である。八戸市やその周辺地域の歴史・文化的資源や、それに関わる活動を幅広く紹介し、地域文化に深い関心を抱いてもらうことを目的としている。地域の文化を知り理解することは、デザインへの新たな発想を促し、地域住民が幸福になるためのサービス、システムづくりに新たな視点をもたらすと考えている。

本科目は、複数教員によるオムニバス形式の講義で、主なテーマは、縄文文化と是川遺跡、漆芸・染織などの伝統工芸、三社大祭・えんぶりなどの郷土芸能、南部の街道と鉄道、津軽と南部にみる地域文化などである。筆者は、地域の染織工芸に関わる分野を担当している。南部紫根染め・南部茜染め（国の記録作成等の措置を講ずべき無形文化財）、南部菱刺し・こぎん刺し・南部裂織（青森県伝統工芸品）の 5 点を取り上げ、染織物と地域の歴史・文化との関わり、染織工芸としての概要や技法的特色、その価値について解説した。受講生からの「体験してみたい」との声を受け、2013 年度から草木染の染色体験や南部菱刺しの製作体験をプログラムに組み込んだ。南部菱刺し製作体験は、技法ガイダンスの後、次の三つのステップで進めている。

- ① 『菱刺し模様集《復刻版》』（写真 1）掲載の伝統模様「型コ」の中から、受講者が好みの菱模様を選択し、図案に写し取る。図案用紙（写真 2）は、あらかじめ作品サイズに合った目数を設定し Excel ソフトで作成したものを配布した。
- ② 生地と刺し糸の色彩の取り合わせを考え、受講者それぞれ好みの色を選択し、図案に基づき刺していく（写真 3）。
- ③ 最後に仕上げとして、ポストカード（写真 4）や缶バッチに加工した。



写真1 模様集

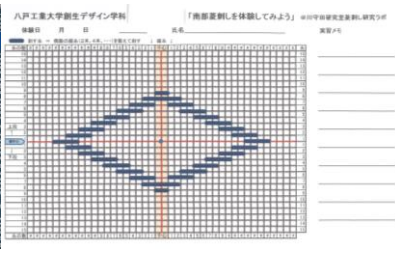


写真2 図案用紙



写真3 製作体験の様子



写真4 作品(ポストカード)

表2 青森県伝統工芸品に関するアンケート
(2019年度受講生54名中/複数回答あり)

伝統工芸品	知っている	活動体験がある
八幡馬	35名	15名
津軽塗	22名	1名
南部菱刺し	22名	7名
南部裂織	17名	1名
こぎん刺し	10名	1名
こけし	7名	0名
えんぶり烏帽子	5名	0名
津軽焼	4名	0名
八戸焼	4名	0名
太鼓	2名	0名
津軽びいどろ	1名	0名
ひば曲物	1名	0名
ねぶたハネト人形	1名	0名
五戸ばおり	1名	0名

授業では毎回レポートを課している。8年間の蓄積データの分析は次稿とし、本稿では、2019年度のレポート結果を紹介する。青森県伝統工芸品に対する学生の認知度および体験度は表2の通りである。「八幡馬」が認知度・体験度ともに高いのは、創生デザイン学科「ビジュアルデザイン演習Ⅰ」において、八幡馬の製作現場リサーチを踏まえたリデザイン活動（パタングラフィクスを用いた製品開発）を展開しているためである。南部菱刺しも比較的認知度・体験度が高い。南部菱刺しは名久井農業高等学校や八戸商業高等学校などにおいて地域文化学習の課題に採用されていた。若い世代にとって伝統工芸品は「日常的に触れえないもの」であるため、

学校教育における「実際に体験する」「製作者と触れる」機会の創出が認知度向上に重要だということを示唆している。なお、「知っているものがない」と回答したのは1名だった。また、このほかに岩手県の伝統的工芸品「南部鉄器」を「知っている」と回答したのが16名であった。

最終回到講義・製作体験を経ての感想を自由記述させた。興味を持った点として、歴史、技法の特色、表裏がない刺し子技術の高さ、伝統模様の美しさ・デザイン性の高さ、模様の多様性、模様の意味、作業の規則性・単純さ、生地と糸のテクスチャーなど、難しかった点として、目の数え方、目の細かさ、作業手順、図案作成と再現（構想力と計画性）、糸の扱いなどが挙げられた。さらに、体験を踏まえて刺し子の意義、刺しという行為がもたらす効果について論じさせた。まとめると次の①～④の4点に集約できる。いずれも南部菱刺しの本質に迫るものであり、非常に興味深い内容であった。

- ① 【創造的効果】個性の表現、オリジナリティの発露、生活を彩り自分を美しく飾る喜び
- ② 【実用的効果】保温性向上・補強、布を大切に作る心の芽生え、生活の知恵、機械に頼らないことの良さ
- ③ 【心理的効果】集中力養成、達成感、脳の活性化、心が落ち着く、ストレス解消、繊細になる、温かい気持ちになった、時間つぶし
- ④ 【人間関係的効果】刺す者同士のコミュニケーション、楽しく会話しながら作業できる、文化交流

3. 卒業研究における教育活動の状況

次に、川守田研究室における教育活動について報告する。創生デザイン学科では、3年「感性デザイン応用演習」、4年「卒業制作・論文」においてゼミ活動を行う。「地域文化論」で南部菱刺しなど地域の染織物に興味を持った学生が、本研究室に所属して卒業研究へと発展させる場合がある。刺し子をテーマとした卒業研究の事例を表3にまとめ、作品画像を付した(写真5～8)。なお、2016、2018、2019年度の研究成果は、

八戸工業大学紀要に掲載されている。ゼミ活動では、南部菱刺しやこぎん刺しに直接触れる機会を重視し、工房見学や製作者インタビュー、ワークショップ参加(写真9)、作品展見学などを積極的に行ってきた。ゼミ生は「実際に体験してみないと本当のすごさは分からない」と語った。直接体験から得た知見が、研究テーマの深化につながり、独創的な研究活動に発展していった。2019年度は、製作者からの依頼により、ワークショップサポーターや作品展のポスターデザイン(写真10)を請け負うなど、学生と製作者との連携が生まれた。また、インターシッパや大学見学会などの高校生向け体験講座で、ゼミ生が講師となって高校生に南部菱刺し(イニシャル菱刺し製作)をレクチャーする場を設けた(写真11.12)が、高校生から好評で、教育的効果が高かった。



写真9 ワークショップの様子



写真10 ポスター



写真11 高校生の体験講義



写真12 イニシャル菱刺し

表3 川守田研究室における刺し子関連研究事例

年度	学生氏名	研究タイトル
2013	中坂徳孝	南部旅人～空間に彩りを加える菱刺し掛軸～
2016	前田奈々 我妻しのぶ	南部裂織とこぎん刺しの現代的表現に向けての試み
2018	越田夏帆	「こぎん刺し」製作者に向けたコミュニケーションツールの提案(製作者交流サイトの提案)
2019	藤原香菜	南部菱刺し「三巾前垂れ」の製作

4. おわりに

以上のとおり、「南部菱刺し」に関わる教育活動として地域文化論および卒業研究活動の成果について報告した。地域文化に主体的に関わっていく学生を育成してくためにも、今後もこのような教育活動を継続していきたい。

参考文献

- 1) 青森県庁ウェブサイト「青森県の伝統工芸品」：
<http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/kensan/DENTO.html>
- 2) 文化庁「国指定文化財等データベース」：
<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>
- 3) 八田愛子・鈴木堯子：菱刺し模様集《復刻版》，株式会社日本ヴォーグ社，2017。
- 4) 前田奈々・我妻しのぶ・川守田礼子：南部裂織とこぎん刺しの現代的表現に向けての試み，八戸工業大学紀要，36巻，pp.197-203，2017。
- 5) 越田夏帆・川守田礼子：「こぎん刺し」製作者に向けたコミュニケーションツールの提案，八戸工業大学紀要，38巻，pp.15-20，2019。
- 6) 藤原香菜・川守田礼子：南部菱刺し「三巾前垂れ」の製作，八戸工業大学紀要，39巻，pp.101-104，2020。



写真5 中坂徳孝の作品



写真6 前田奈々の作品



写真7 越田夏帆の作品



写真8 藤原香菜の作品